

第5学年 道徳学習指導案

日 時 平成20年10月17日(金) 5校時
児 童 男11名 女15名 計26名
指導者 彌勒地 哲也

- 1 主題名 希望をもって 1-(2) 希望、勇気、不撓不屈
- 2 資料名 「メジャーリーガー・イチロー」(みんなのどうとく 5年 学研)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第5学年及び第6学年の道徳の内容1「主として自分自身に関すること」の項目(2)は「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」である。

急速に変化する時代、また、物質的に豊かになった社会の中で、子どもたちは時代の先行きに不安を感じたり、あふれる物に囲まれて無目的に過ごしたりしていることも少なくない。そこで、夢をもち、やりぬくことの大切さを自覚させたい。これが心の支えになり、夢を実現していくことにつながっていく。また、その過程での充実感こそが、努力することの大切さを身に付ける力となる。本題材を通じて、自分の夢に向かって希望をもち、その夢を実現させるために勇気をもって挑戦し、苦難にも挫けない不撓不屈の精神を身に付けさせたい。

(2) 児童について

学級の子ども達は、明るく活発な児童が多く、あいさつや返事もしっかりできる。係活動では、係毎に活動を創意工夫しながら積極的に取り組んでいる。学力面では個人差が大きく、自主的に学習に対して取り組んでいく児童もいるが、意図的な指導を必要とする児童も数名いる。

また、多くの子どもたちは、水泳記録会へ向けての練習を頑張ったり、野球・ミニバス・卓球・水泳などのスポーツ少年団に所属して、大会に向けて練習を積み重ねたりしながら、目標を立てて、その実現に向かって努力しようとしている。さらに、業間運動の5分間マラソンには週に4日取り組み、マラソンカードに記入しながら、意欲的に体力づくりに取り組んでいる。

しかし、少数ではあるが、目標をもたずに自分の気の赴くままに行動し、つつい楽な方に流れていくことがある。また、その個人差も大きい。そこで、夢や目標の実現のために、どのような心がまえで臨めば良いのかを考えさせたい。

(3) 資料について

本資料は、野球の本場アメリカ合衆国に夢の実現のため、自分の新たな活躍の場を求めて挑戦していくイチローの話である。

現在、華やかな舞台で活躍してはいるが、その少年時代は、習い事やテレビゲームに熱中するごく普通の小学生と変わらなかった。そこで、児童にとって身近な存在として意識させながらも、さらに、努力を惜しまず探究心をもって野球に熱中していく様子に触れさせていく。さらに、日本での輝かしい成績に甘んじることなく、自分の夢をしっかりとつかむために努力を惜しまないイチローの情熱を感じ取らせたい。

4 本時の指導

(1) 研究主題との関わり

①本時の位置づけ (道徳的実践活動の活動計画より)

	道徳的実践活動の ねらい	第1段階 道徳的価値への 気づき	第2段階 活動・体験	第3段階 道徳性の高まり
10 月	4月からの体力づくり運動に目標をもって取り組み、校内マラソン大会において達成感・充実感をもたせることにより、粘り強く努力しようとする態度を育てる。	【短学活】 試走前にめあてを設定させ、各試走後に振り返りをさせながら、本番に向けてのめあてを明らかにさせる。	【学校行事】 校内マラソン大会 達成感・充実感をもたせることにより、粘り強く努力しようとする態度を育てる。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 【道徳の時間】 1 - (2) 希望、勇気、不撓不屈 「メジャーリーガー・イチロー」 より高い目標を立てて、困難や失敗にくじけずに、希望をもって一步一步努力することの大切さを自覚させる。 本時 </div>

②指導の手立て

児童は、「校内マラソン大会」に向けて、4月から体力づくりとして業間運動に取り組み、5分間のマラソンを行っている。限られた時間の中で、より長い距離を走ろうと必死になって努力する児童もいるが、実際、その活動の中で、「疲れるからいやだ。」「遊びたいのに。」という気持ちをもって取り組んでいる児童もいる。

まず、第一段階「道徳的価値への気づき」では、体育の時間を使って行った「試走」の結果をもとにしながら、マラソン大会当日の目標タイムを決める。その時に、「マラソン大会」に臨むにあたっての心構えや、さらに、2ヶ月前に行われた「北京オリンピック」の話題についても触れ、選手のエピソードを聞かせながら、意欲の高揚を図るようにした。

第二段階「活動・体験」では、学校行事「校内マラソン大会」に取り組み、自分の目標に向かって頑張っていくことの大切さを体感させる。

そして、第三段階「道徳性の高まり」では、本時の道徳の学習を通して、困難や失敗にくじけずに、希望をもって一步一步努力することの大切さを自覚させる。本時の導入段階では、「マラソン大会」の活動を映像により振り返り、その時の心情を想起させる。**【事前の活動の想起】**また、本題材のイチローと自分の姿を重ね合わせて授業の感想を書くことで、今後の道徳的価値を高めたい。**【書く活動】**

(2) ねらい

より高い目標を立てて、困難や失敗にくじけずに、希望をもって一步一步努力することの大切さを自覚させる。

(3) 展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 マラソン大会の映像を見ながら自分の取り組みを振り返り、その時の気持ちについて考える。</p> <p>○マラソン大会では、どんな事を思いながら走ったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疲れるなあ。 ・ ゴールまであと少しだから、頑張ろう。 ・ 目標のタイムを目指して頑張るぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事の事を想起させ、価値への方向付けを図る。 <p>【事前の活動の想起】</p>
展開 35分	<p>2 資料「メジャーリーガー・イチロー」を読んで、話し合う。</p> <p>(1) 小学校三年生から本格的に野球を始めたイチローは、父と練習している時、どんな事を思ったか。</p> <p>(2) 一軍に上がった時、二軍に落ちたりしている時、イチローはどんな気持ちだったか。</p> <p>(3) 野球の本場アメリカ合衆国のメジャーリーグで新たな挑戦を始めた時、イチローはどんな気持ちだったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習嫌だな。 ・ プロ野球選手になりたい。 ・ 負けないぞ。 ・ 誰よりもうまくなりたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一軍にいけるよう頑張るぞ。 ・ どうすれば打てるようになるかな。 ・ つらいな。 ・ いい選手のいい所を学ぼう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人として頑張るぞ。 ・ このチャンス生かすぞ。 ・ 日本の野球が世界に通用することを証明してやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの頃のイチローの純粋な夢、気持ちを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一軍に上がれないでいる時の気持ちに気付かせ、心の葛藤に触れさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 夢を実現させるためには、希望をもってやりぬくことが必要であることに気付かせ、勇気をもって挑戦することの大切さを自覚させる。

	<p>3 自分について振り返る。</p> <p>○イチローについてどんな事を感じましたか。普段の自分と重ね合わせて書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イチローのように、つらいことがあっても勉強を頑張る。 ・ スポ少の練習がつかなくても、選手になれるように頑張る。 ・ 何が何でも自分の夢の実現するよう頑張る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心を強く持って今後の活動に生かしていく意欲につなげる。 ・ ワークシートに書かせ。 <p style="text-align: right;">【書く活動】</p>
終末5分	<p>4 教師の体験談を聞かせる。</p> <p>○くじけそうになりながらも、頑張り続けて目標を達成した。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の学生の時の話を聞くことで、今後の道徳的実践力の高揚を図る。

(4) 板書計画

夢に向かって

メジャーリーグのイチロー

- ・ 日本人として頑張るぞ。
- ・ このチャンス生かすぞ。
- ・ 日本の野球が世界に通用することを証明してやる。

メジャーリーグイチロー

オリックス時代のイチロー

- ・ 一軍にいけるよう頑張るぞ。
- ・ どうすれば打てるようになるかな。
- ・ つらいな。
- ・ いい選手のいい所を学ぼう。
- ・ メジャーリーグってどんなところ？

プロ一・二年目

子どもの頃のイチロー

- ・ 私には無理だ。
- ・ 練習嫌だな。
- ・ お父さんが一生懸命だ。
- ・ プロ野球選手になりたい。
- ・ 負けたくないぞ。
- ・ 誰よりもまくなりたい。

メジャーリーグ・イチロー

野球を始めた

5 資料分析 「メジャーリーガー・イチロー」 (みんなのどうとく 5年 学研)

